

ある日の越境

八百屋さん

同じ県内でも、

北と南では風景も空気も変わると思う。

朝のうちにアパートを出て、すぐに最寄りのコンビニに車を止めた。

ドリンク剤と缶コーヒーを買ってその場で飲む。

何に頼ってもいいから気持ちを盛り上げたかった。

隣町のインターチェンジから高速道路に乗り

いつも天気が荒れる峠の集落、

そろそろ紅葉の始まった平野の町を通過して――

何度か下りたことのあるA市の中央インターを示す標識を横目に時速百二十キロを保ったまま行き過ぎるとき、少しだけ心臓が痛んだ気がした。

さあここからは、初めて通る道だ。